『海外獣医大学の卒業生の方に Interview！②　渡邉桃子 先生』の後半記事です！

◆研究室に所属したり、卒業論文を書いたりするのはありますか？

RVC では研究室配属や卒業論文というのは基本的になかったですね。一応、2 年生と 5 年生の頃に論文のようなレポートを書くというのはあり、担当する先生などもいらっしゃるのですが、既にデータがあったりするのをまとめて解析するようなものが多く、しっかりと自分で研究をするという感じではないですね。私は福島県出身ということで、福島県の牛乳に含まれる放射性物質の量に関するレポートを書いたんですが、実習で伺った牧場からデータをいただき 2 か月程度で書き上げることができました。

◆RVC 在学中特に印象に残ったこと、大変だったことはありますか？

やはり、実習を自分でスケジュールを組んだりアポイントを取ったりするのが大変でしたね。私は年 1，2 回日本に帰ってきていたのですが、そのタイミングで日本の牧場などに連絡をしてお願いをしたり、RVC に提出する書類も英語なのでその書類を翻訳したりするのが大変でした。とにかく実習が多かったので、5 年生の最後のほうではクリスマスもお正月も関係なく、6 週間くらいぶっ通しで実習だった時もありました。

◆大学周辺の住環境や生活環境はどうでしたか？

ロンドン中心部の方のキャンパスは本当に都会なのですが、郊外のキャンパスの方に移動すると、周りは牧場しかなくて、羊と牛に囲まれている感じですね。最寄りの駅まで車やシャトルバスで 15 分くらい、その駅からロンドン市内に移動するという感じですね。イギリスはコンビニというものが基本的にないので、少しお腹がすいたなどの時も車で 10 分くらいのスーパーへ行かないといけませんでした。パブやクラブもほとんどロンドン市内にあるので、学生も土日はロンドン市内に遊びに行くという感じでしたね。私は 2 週間に 1 回、少なくとも月に 1 回は日本食を食べたり、日本のお米やカップラーメンを買えるスーパーへ行くためにロンドン市内に出かけていました（笑）

◆イギリスの獣医学生はどんな方面に就職するんでしょうか？

イギリス人の学生はほとんどイギリス国内で就職していましたね。RVC の学生は希望すれば、アメリカの獣医師国家試験を受けられるので、そういうものを受けてアメリカで就職する人も結構いました。イギリスで獣医師免許を取れば、シンガポールやオー

ストラリア、ニュージーランドなど様々な国で働くことができるので、留学生でもイギリスに残る人もいれば母国に帰ったり、第３国に行ったりする人も多かったです。

職域では、7～8 割の人が小動物臨床の道に進みますね。馬の臨床を強く希望する人も多くて、それを含めて産業動物臨床に進む人が３割といった感じですね。イギリスは馬専門の個人クリニックも多くて、個人の方がペット・乗馬として飼っている馬の往診をしたり、ミックスプラクティスといって大動物も小動物も診るクリニックも多くあります。イギリスは羊も非常に多くて、大学の授業も羊について非常に詳しく学びます。産業動物を診る獣医師も産業動物全般を診る小規模なクリニックに努めることが多く、日本の NOSAI のような組織はイギリスにはありませんね。検疫や食肉・食鳥検査を行う獣医師の方もいらっしゃいますが非常に数は少なくて、ほとんど全員が臨床に進むというような印象です。大学院に進む学生もいますが非常に少数ですね。小動物よりも大動物の臨床のほうが給与が高く、労働環境も良い傾向があるように感じますね。時間外の診療なども回数などが契約でしっかりと決められていることが多いです。

◆日本とイギリスの獣医療や獣医師の働き方の違いはありますか？

イギリスも狂犬病が存在しない国ですが、イギリスでは狂犬病のワクチンは義務化はされていないです。また、イギリスの気候条件が原因なのですが、フィラリアもほとんど存在しないため、フィラリア予防薬なども一般的には用いられていないですね。

イギリスと日本の獣医療の違いに関して感じることは、イギリスの方が安楽死が積極的に選択されることが多いというのを感じます。授業などでも、必ず安楽死は治療法の１つとして入っているべきだという風に教えられますし、高齢のペットが病気になり完全な治癒が見込めないような場合には、獣医師が積極的に選択肢の一つとして安楽死を飼い主に提示しているように感じます。飼い主の人たちの方も、しばしば隣の犬が安楽死で亡くなったなどのことも多く、安楽死についての知識なども豊富なように感じます（もちろん安楽死が良いか悪いかということは決められませんが）。最近はイギリスではグレイハウンドの保護が増えていて、保護シェルターからそういった犬・猫を引き取って飼っている人の割合が日本よりも多いという印象です。

◆ありがとうございます。最後に、今後の先生の将来のキャリアプランを教えていただきたいです。

当分の間は日本で動物看護師として働きつつ、日本の獣医師国家試験を受けるための勉強を進めていくつもりです。海外の獣医大学を卒業した後日本の獣医師国家試験を受けるためには農林水産省に書類を提出して審査に合格する必要があるのですが、その書類の提出締め切りが６月で大学の卒業前だったために、2021 年２月の国家試験を受け

ることができないので、2022 年 2 月の試験を目指して勉強していこうと思います。試験受験までの間日本で動物看護師として働くというと周りにはもったいないといわれるのですが、大学卒業してすぐの今が一番受験勉強の負担も少ないと思いますし、小動物臨床に進むと大動物に関することを忘れてしまったりもすると思うので、まずは日本の国家試験を早く受けたいと思っています。

　コロナ禍の前は日本で国家試験に受かった後はイギリス以外の国など海外の様々な国で働いて、より専門的なことなどを学んでから日本に帰ってこようかと思っていたのですが・・・。イギリスと日本は時差が大きくて苦労したので、次は日本と時差の近いニュージーランドなどで働きたいなあと思っています。

渡邉先生、お忙しいところお時間を割いていただき本当にありがとうございました！

編集：宮崎大学農学部獣医学科 4 年次　高橋和暉